

あいであ & アイデア**さまざまなアイデア器具で作業効率 UP!****臼井牧場(岐阜県大垣市)の取り組み**

編集 部

はじめに

揖斐川、長良川はじめ15もの一級河川が流れる水の都・岐阜県大垣市。県内西部に位置し、県内有数の稲作地帯でもある大垣市で飼料用米を活用した酪農経営を営むのが、搾乳牛60頭を飼養する臼井牧場です。

経営主の臼井節雄さんは自作地の水田10haで飼料用米専用品種「モミロマン」を生産しています。地域の営農組合からも購入していて、稲WCSも合わせると25ha分を利用しているそうです。

臼井牧場が飼料用米の給与を始めたのは2010年。トウモロコシからの切り替えを進め、2013年にトウモロコシをすべて飼料用米に置き換えました。現在は搾乳牛1頭当たり1日7kgの飼料用米を給餌しています。

「飼料用米は細かく粉砕することで消化しやすくなり、飼料効率がよくなる」と臼井さん。トウモロコシを全量飼料用米に切り替えてから1頭当たり乳量がそれまでの6500kgから8000kgに向上し、乳タンパク質も安定したそうです。「もみ殻の繊維質や物理性がいい影響を与えているのだと思う」と臼井さんは分析しています。

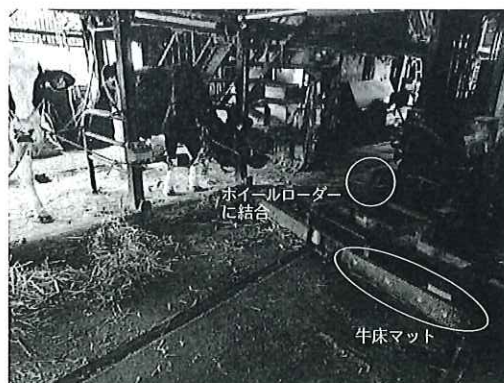
飼料用米の破碎には、臼井さんが自作した機械を活用しています。こちらは本誌No.269号(平成24年4月15日発行)でご紹介しました。

今回、臼井牧場の飼料用米の給餌や日々の飼養管理を支える、臼井さんが自作したさまざまなアイデア器具を紹介します。

餌寄せ機

ホイールローダーに取り付けられるタイプの餌寄せ機です。全体の骨格は木材、鉄パイプ(角)、鉄板でできています。ホイールローダーの前面下部にも鉄パイプなどを取り付け、餌寄せ機と結合できるようになっています。

機械前面の飼料を押し集める部分の素材には古くなった牛床マットが使われています。牛床マットは弾力性があり、粗飼料をうまく集められるとのこと。



(図1) 餌寄せ機

制作にあたっては、臼井さんはご自身で溶接したとのことでした。

デッキブラシを使った清掃器具

乳牛には飼料用米は破碎して給餌しなければ消化率が悪く、飼料効率が低下します。そこで臼井牧場では、飼料用米を粉～2.5mm程度に破碎して給餌しています。

粒子が細かいため、牛舎の床の凹凸に飼料用米が引っ掛かり、きれいに掃除するのは困難です。そこで臼井さんは、掃除器具を制作しました。

この器具は、ブラシ部分にデッキブラシの先端を利用しています。デッキブラシ5本の柄を切断し、ブラシ部分のみを木の板と鉄板で連結します。ここで鉄板を使用することで、鉄板の重さにより、細かい溝まで掃除できるとのことです。

掃除器具自体の柄などには鉄パイプ（角）を利用しています。こちらも鉄パイプの切断や溶接等は臼井さんご自身で行ったとのことでした。

また、柄の部分にタイヤ付きの脚をつけたことで、楽に操作できるよう工夫されています。



(図2) デッキブラシを使った掃除用具

移動式の掃除用具収納棚

普段使う掃除用具はなかなか定位置が決まりにくかったり、整理整頓が行き届きにくかったりするものです。臼井牧場では、移動式の収納棚を使っています。

ポイントは^{ほうき}箒を収納したときに手前に傾くようにしているところです。取り出しやすさが全く違うとのこと。また、下部にちり取りなどの道具も収納できるスペースが設けられています。

タイヤを付けたことで容易に移動させることができ、使いたい場所まで楽に運ぶこともできます。

以上、臼井さんが自作したさまざまなアイデア器具を紹介しました。作業を快適にするこれらの道具、みなさんの経営でも取り入れられてはいかがでしょうか。



(図3) 移動式の掃除用具収納棚